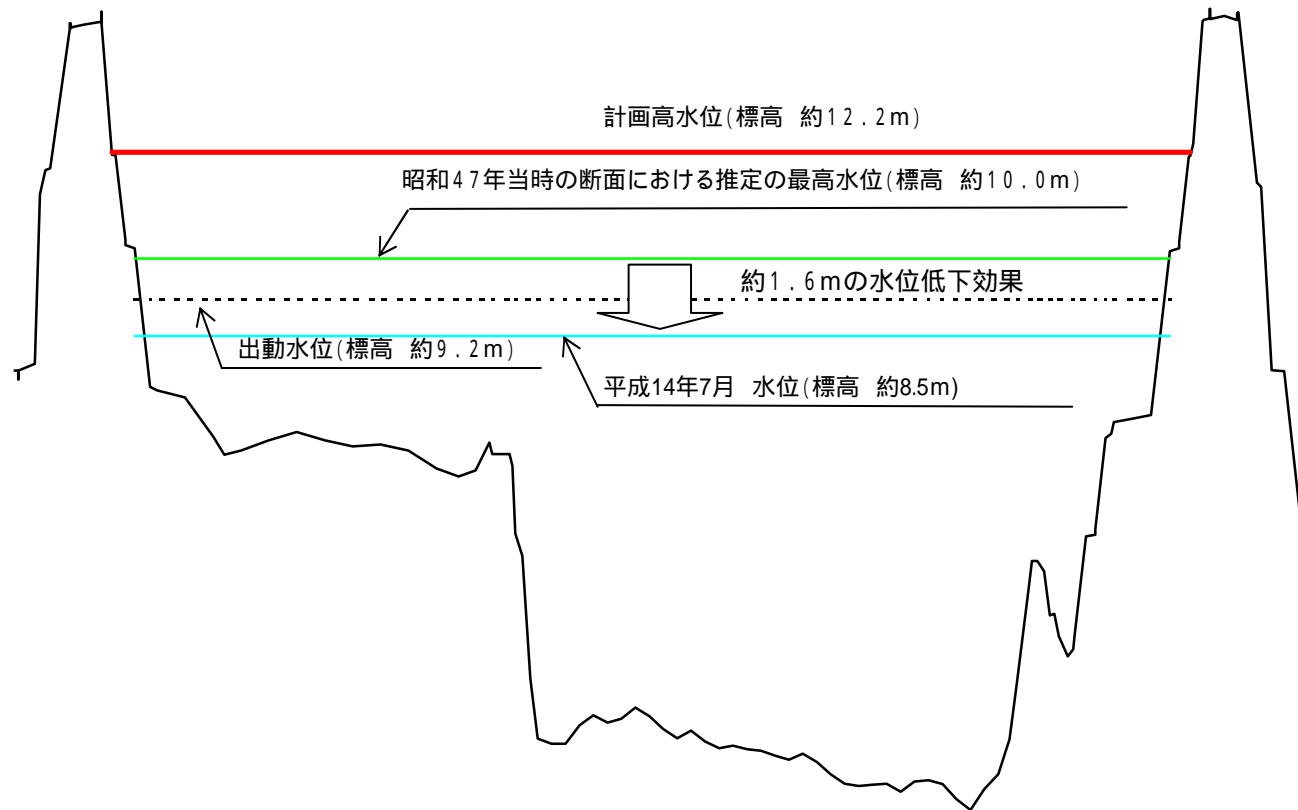


長良川浚渫による水位低下効果 (平成14年7月10日出水:墨俣地点)

平成14年7月の出水は、墨俣地点(河口から39.2km)流量で最大約4,400m³/sでした。長良川の河道浚渫以前の昭和40年代の主な出水記録から、平成14年7月洪水の流量規模に近い昭和47年7月(最大流量約4,800m³/s)時の出水について、平成14年7月洪水と同じ流量が流れたと仮定した場合の墨俣地点での水位を推定し、平成14年7月洪水の出水と比較してみました。

その結果、墨俣地点(河口から39.2km)では、平成14年7月洪水では河道浚渫前に比べて約1.6mの水位低下効果があったものと推定されます。



ピーク流量、ピーク水位については確定値

S47.7出水の水位と流量の関係を用いて、H14.7出水と同じ流量が流れたと仮定した場合の墨俣地点での水位を推定し比較

出動水位:水防団が巡視、点検を開始する水位

長良川しゅんせつによる水位低下効果及び警戒水位継続時間の短縮効果
 (平成14年7月10日出水：墨俣地点)

